

■■■ 韓国スタディツアー報告 ■■■

4月11日(木)~4月14日(日)の4日間、韓国のソウルと安山(アンサン)にスタディツアーに行ってきました。参加者は兵庫県立大学の野津隆志教授、神戸大学の岡田浩樹教授、KFCスタッフ・理事など7名でした。ミサイル騒ぎの真っ只中という事で、仁川空港は閑散としていました。

初日は、「アジアの窓」というNGO団体を訪問しました。アジアの窓は、金型の工業団地がある軍浦市山本(グンポシサンボン)にあり、そこで働く移住労働者からの相談や結婚で韓国に来たアジア女性の相談活動を実施しています。この団体の強みは、弁護士が週3回も携わっていることです。これは、司法修習修了者を同期約200名が少しずつお金を払い、弁護士2名を公益活動を行う団体に派遣するシステムがあり、今年1名に来てもらえることになったからだそうです。期間は最長3年間までで、その後はどうなるかわからないとのことでしたが、日本にも同じような仕組みを作ってほしいと強く思いました。

2日目は、難民認定申請中の方の支援と脱北者の支援をしている「難民たちの避難所」に行きました。事務所の横には、エチオピアや中国の難民の方たちが生活をされているシェルターがありました。韓国には許可されていない難民が約2000人いると言われており、お金があれば、家を借りることは比較的簡単なので、未登録のまま仕事をして、家を借りて生活しているそうです。

その後、「社団法人 愛のわかちあい」に行きました。ここは、教会が実施母体となっており、職業相談事業、学校・幼稚園運営、無料の食堂経営、外国人労働者専用病院など政府からの多額の委託金で運営しており、ビルも所有していました。最低賃金以下でスタッフが働いている他団体と比べて、その規模の違いに驚かされました。

3日目は、外国人労働者が多く住む安山市にある「地球人の停留所」に行きました。ここは、3DKほどの広さのマンションに、非専門労働ビザで来たカンボジア人たち40名ほどを収容するシェルターです。カンボジア人たちは、済州島など遠くからも口コミで集まってきていました。研修生制度を廃止した韓国では、現在は非専門労働ビザを発行し、農業や工場等に従事させています。仕事を変わりたいときには、雇用主に印鑑をもらう必要があったり、基本的に仕事を選ぶことはできないなど、問題点が多くあるようでした。あるカンボジア男性は、水原の電気工場にいたのですが、雇用主から「仕事がないから休んで。休んでいる間は給料がないよ」と言われて、相談に来たということでした。

安山市は、多文化な街を売り出しており、「多文化飲食街」という通りに、ベトナム料理店やカンボジア料理店などが立ち並んでいました。土曜日ということもあってか、たくさんの人で賑わっていました。

その他に、移住民放送局(MWTV)、安山市多文化広報学習館、多様な文化が集まる図書館「MODOO」、安山市役所、安山Mセンターなどを訪問しました。

コーディネーター及び通訳をお願いした釜山大学研究員のイ・ヘジンさんは日本の移民政策や多文化状況の研究もされているため、とても的確に通訳をしてくださいました。また、個人的に活動しているような団体から、宗教団体が運営する巨大な支援団体まで、イ・ヘジンさんのコーディネーターのおかげで多彩な団体の訪問ができました。

食事する時間もないような強行スケジュールでしたが、大変盛り多いスタディツアーとなりました。(志岐 良子)

---

## ■■■KFC日本語プロジェクト■■■

### ◆「日本語ボランティア講座」に参加して

1月、2月に計6回で行われたこの講座は

様々な角度から“日本語ボランティア”について学ぶことができ、その内容も盛りだくさんでした。

第1回、2回の齊藤先生のお話は、非常に具体的、実践的で、実際に教えるにあたってすぐに必要な知識を教えてくださいました。最初のレッスンからすぐに必要な単語、フレーズ、文章をシンプルにわかりやすくすること、例を挙げ状況で説明すること等々、日本語を日本語で教えるのに欠かせないテクニックがいっぱいでした。発音については本当に知らないことが多かったです。私は、母音の少ない日本語は発音がやさしい言語である、とと思っていましたがそうでもないこと、また母音の無音化があることなどは今まで思ってもみないかったことでした。私たちが何気なく使っている日本語を外国語として見直して、はじめてその難しさに気づくことができました。

KFC金理事長からは在日「外国人」事情についてお話いただきました。「日本国籍とは」という基本的な、しかしあまり考えたことのない問題からはじまり、その実態、歴史的な状況、在留資格など、日本に暮らす外国の方々の背景について学びました。私自身、ボランティアを始めるまで、長田にこんなにベトナムの方が多いたとは知らずにいました。興味、関心を持たないとわからないことは多いのだと感じました。

第4回は、外国から日本に来て、母語ではない言葉のなかで生活する学習者の方の心情を考える回でした。支援者の高橋博子さんとその学習者の春井ユリさんがお話くださいました。お二人は意欲的で優秀なため、とてもうまくスムーズにいったケースだと感じました。個人的には難しかった話、つまりいた点などもお聞きしてみたいと思いました。また高橋さんは役に立つ教材や参考図書を幾つかご紹介くださいましたが、そのうちのひとつ、“マインドマップ”は大変興味深い方法で、頭の中の整理には便利である、と興味をそそられました。家でも試しに描いてみたりしたのですが、今度ちょっと良いカラーペンを買ってもっとちゃんと描いてみたいと考えています。

そして最後は二週にわたって、日本語テキスト「なでしこジャパニーズ」の使い方を教えてくださいました。まず「日本語ボランティアを通して」という題でグループで今までの成功例、課題点を話し合いました。次に私たちが学校教育で英語を習ってきたような“文系積み上げ式”と、「なでしこジャパニーズ」の“タスク積み上げ式”の違いについて学びました。ボランティアが支援するのは日本で暮らす「生活者」であるので、「日本語」を道具として生活の中にすぐ使えるよう考えられたテキストが「なでしこジャパニーズ」である、と私は解釈しました。また、このテキストは語彙をフレーズと一緒に覚えることができ、自主学習も可能であるとのことでした。

実際、このテキストを使用してのKFCでのレッスンは、学習者のかたの発話も多く、楽しい授業であると私は感じています。

以上のように講座内容自体も非常に勉強になったのですが、それ以外にも、他のボランティアの方々と話をし、よその教室での勉強方法や実状をお聞きすることができたのは、よい機会でした。

参加することができて本当によかった、と思っています。ありがとうございました。

(吉井 朋子)

### ◆日本語教育に魅せられて…

私が日本語教育の世界に飛び込んだのは、大学2回生の1月でした。海外へ行くたびに、海外で

日本語を勉強する学生に出会い、何かお手伝いができればと思ったのがきっかけです。1年間、日本語教師養成講座に通っている間も、その後も日本語教育への関心は尽きることがありませんでした。日本語を教えたいなと思っていた昨年7月。知人づてにこちらの日本語教室でボランティアの先生を募集していることを知り、参加することにしました。

私は毎週月曜日と木曜日の夜に開かれている日本語教室に参加していました。日本語の教え方は養成講座で勉強したものの、どうすればよいのかわからず、最初は戸惑っていましたが、同じボランティアの先生と話をしたり、どんな教材を使えばよいのか聞いたりするうちに、だんだん1時間半の授業ができるようになってきました。私の教える学習者が、私と同年代であったこと、また同じ女性だったことが幸いして、すぐに打ち解け、楽しく授業を行うことができました。おかげで学習者も週に2回、きちんと授業に出席し、勉強を積み重ねていくことができたと思っています。また私自身、教師としての自信をつけることができました。しかし何よりも学習者が、日本語を使ってコミュニケーションを取ろうとしてくれたり、わからなかった日本語を理解した時に見せる笑顔を見ることができたりして、日本語教師としてのやりがいや喜びを知ることができました。

ここでの経験と知識を生かして、今度は海外で日本語を学ぶ学生のお手伝いがしたいと思い、青年海外協力隊に参加することを決めました。現在、福島県二本松市にある青年海外協力隊訓練所で70日間の訓練を受けています。訓練内容の大半は語学です。私はタイへ行くので、タイ語を勉強していますが、訓練所内では様々な言語を勉強している人たちがいるので、挨拶はジャンボ！HELLO！ニーハオ！ボンジュール！サワディーカー！などの言葉が飛び交っています。協力隊の参加者は皆、主体的で積極的で、熱い人たちばかりなので、すごく刺激がある毎日です。語学の最終試験を突破し、無事派遣されるためにも、今はタイで私を待っている学生たちに思いを馳せながら、タイ語習得に精進するばかりです。

(青年海外協力隊平成25年度1次隊 タイ 日本語教育 中川夏姫)

---

## ■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

### ◆プレスクール開催報告

2013年1月から3月の毎週土曜日に3年目となるプレスクールの事業を実施しました。今年度は新たに、賀川記念館の方でも、計4回のプレスクール体験を開催することができました。

プレスクールは、4月から小学1年生になる外国にルーツを持つ子どもが対象で、今年度は合計9人の子どもたちがプレスクールで学びました。主な学習内容は、ひらがな・カタカナの読み書き、計算など小学校の学習に関するサポートで、就学前教育の支援として位置付けています。

プレスクールの実施意義は、小学校生活へのスムーズな移行にあると考えています。もちろん学習もそうですが、教科の勉強だけでなく、学校生活に関わることを指導内容とすることが目標です。たとえば「じゃんけん」で決めるという体験や、手を挙げて順に発言するというルール、不調を訴えるための表現、先生の指示を聞き理解するという体験など、人間関係や学校生活にかかわること全般です。もちろん日本語の高い理解力も必要になってくると思います。保護者にお便りを渡す、必要なものを準備してもらうように伝えるなど、子どもが実際の学校生活で児童としての役割が果たせるように先立って支援する（体験をしてもらう）ことも重要なプレスクールの要素だと感じています。

同時にプレスクールの実施は、保護者へのサポートとしても有効です。日本の学校システムを理解し、親しみを持ってもらえる機会として活用できます。学校生活に関する語彙や、欠席の連絡方法など、保護者の方も安心して子どもの学校生活を見守れるように、必要な情報を提供するなど、スタッフ一同、今後もサポート体制を充実させていく予定です。（藪田 直子）

## ◆講演「外国にルーツを持つ子どもを育む地域の力」

2013年4月6日土曜日に愛知淑徳大学准教授の小島祥美先生のご講演がありました。会場は賀川記念館のホールで、ほとんど空席のないなか「外国にルーツを持つ子どもを育む地域の力」というタイトルで各地域の取り組みなどが紹介されました。

映像や写真、公立小学校勤務時代に関わった子どもたちとのエピソードなど織り交ぜながら、熱っぽく語る小島先生のお話により会場も引き込まれていきました。まずはじめは、日本の教育に関する簡単なクイズがあり、外国にルーツを持つ子どもの学習状況が紹介されました。

2002年に岐阜県可児市は、市内の学齢期の子どもの就学状況調査を実施しました。小島先生は数字の上で特に見過ごされやすい日系人の家庭を戸別訪問し、就学状況の把握に奔走されました。そこで明らかになった不就学の原因としては、これまで教育現場で注目されてきた言語の問題、いじめの問題に加えて、「学習意欲の低下」という問題点が浮かび上がってきました。学習に対する苦手意識や将来に対する絶望感が子どもたちを学校や進学之道から遠ざけていることが分かりました。この調査を受けて、スモールステップで学習の目標を明確化すること、人生の選択肢を豊富に提示すること、自信の獲得という3つの要素を掲げた不就学ゼロに向けた取り組みが始まっています。

また就学前教育、プレスクールの実施状況についても全国調査から報告がありました。行政が主導になって実施している4地域とNPO主導で実施している3地域（神戸市のKFCの活動を含む）があることが確認されました。

豊富な調査経験から、小島先生がまとめられた支援を行う際の5つのポイントが紹介されました。（1）正確な学習歴の把握（2）正確な情報の収集（3）正確な情報の伝達（4）自己肯定感や自尊感情を育てる場づくり（5）将来を見据えたサポートの5つです。参加者には実際に地域で支援をしている方、これから支援活動に参加しようとしている方も多く、参加者1人1人にとって大変有意義な時間となりました。

終始、エネルギーで明るい先生のお人柄が伝わってくる内容の濃い2時間となりました。  
(藪田 直子)

## ◆高校進学状況

この4月にKFCで学習していた中学3年生5名が高校に進学しました。

今回は公立2名、私立1名、定時制に2名合格しました。公立に進学することになった子の高校は、高校入試にしては倍率が高く、本人も周りもひやひやしていましたが、無事合格できて、保護者も支援者も大変喜ばれました。

しかし、せっかく入った高校を辞めてしまう子どもも多いので、無事、卒業してくれることを祈っています。

---

## ■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

### ◆京都バス旅行

暖かい日が続いたので、遠足の3月24日は桜の開花が期待される日となりました。総勢98名、バス2台で定時に出発です。歌を歌ったりおしゃべりしたり、賑やかに一日が始まりました。まずは京都市伏見区の月桂冠大倉記念館へ。幹線道路から路地に入ると京都ならではの街並みとなり、住宅街の一角に第一の目的地はありました。町屋を改造した建物は風情たっぷりです。日本酒を作る道具や昔のお酒のラベルなどを見学し、ご期待の試飲でコースは終了、お昼前からちょ

つといい気分です。お土産コーナーでは財布のひもも緩みます。

次の目的地は伏見稲荷大社です。バスの駐車場から京土産や飲食店が並ぶ参道を抜け、境内の入り口でひとまず解散、お弁当タイムです。奥の庭でお弁当を広げる人、持ってきたお惣菜を分け合うグループ、参拝する人、写真を撮る人、集合時間まで思い思いに過ごしました。その後、最後の観光地、醍醐寺では霊宝館に入りました。特別展も見ることができましたが、うわあ、桜が満開です！！ 自然や天気は思い通りにはなりません。私たちの来訪に合わせたような春の贈り物に感動も一塩です。思い出に残るいい写真が何枚も撮れました。3時過ぎ、醍醐寺を後にして、もうひと踏ん張り、八つ橋のお土産店に寄り買い物を済ませ、帰途へ。帰りのバスではちょっとお疲れの顔もありますが、かばんに忍ばせてきたお菓子をポリポリ、歌好きのメンバーは終わることなく合唱し、次のバス旅行の話も出てきて、一日共に遊んだ仲間は一層絆を深めたようです。

事故なく、大きなハプニングなく、ジャストオンタイム・予定通り6時15分にバス下車解散となりました。解散したら帰るのみ、一目散に我が家へ向かって去って行きました。

いつもながらのバイタリティとエネルギー、集団行動をしているけれども個人個人が自由に振る舞っている、私がいつも感じている強さとたくましさ、この日も再認識した次第です。最後になりましたが、スタッフや帰国者ボランティアの方々、お疲様でした。（奥 優伽子）

---

## ■■■ ハナの会 ■■■

### ◆新職員紹介

デイサービスセンターハナの会では今年度から、新しく2人のスタッフを迎えることが出来ました。一人は、在日コリアン3世で、一人は中国から来て10数年になっている方です。2人とも、一ヶ月ちょっとしかたっていませんが、利用者の方から大変人気を集めています。以下は2人の自己紹介ですので、これからも応援よろしく願いいたします。

はじめまして！看護師の林夏美（イム・ハミ）です。在日韓国人3世ですが、小学校から看護学校まで日本の学校で、両親も日本語しか話せないため、韓国語は挨拶程度しか話せません。出身は福井県敦賀市です。看護師になって13年目です。看護師になったきっかけは、一人でもしっかりと生きていけるような仕事に就きたかったのと、脳性麻痺のいところがあるので、障害を持った人の手助けがしたかったからです。都会への憧れが強く、看護師3年目で福井県から逃げるように東京に出て5年過ごし、その後仙台で3年暮らしました。年貢の納め時だと思い33歳の時に福井県に戻り、35歳で縁があり神戸に嫁いできました。結婚生活は思い描いていたのとは全く違いますが、結婚=幸せではなく、結婚=苦勞なんだとあきらめるしかありません。テレビで美輪明宏さんも同じような事を言っていました。デイサービスセンターハナの会では、自分らしく元気で明るく、利用者様が声をかけやすい看護師になるよう頑張ります。強くはありませんがお酒を飲むのが大好きなので、気軽に誘ってください！まだまだ未熟者ですが皆様どうか宜しく願い致します。

はじめまして！私は李春香と申します。中国出身です。昭和31年生まれです。1975年に高校を卒業しました。そして会社に入社して、2001年に日本に来ました。生活のためにとりあえず靴の工場に入社しました。仕事をしながら日本語を勉強していました。2013年4月にこのデイサービスセンターハナの会に入社して1か月経ちました。利用者様から毎日親切な言葉を頂いて、元気に働いています。中国語で「最美不 夕 」（人生晩年が美しき。輝ける夕日のごとく）という言葉があるように、今まで頑張ってきた利用者様の晩年の幸せをお祈りしています。これから仕

事を頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

## ◆介護の仕事に携わって

私はペルーからきました。あんまり日本語が上手ではないですが、介護の仕事をしているので、日本語が少し上手になりました。仕事はとても楽しいです。私が介護の仕事始めて、もうすぐ2年ぐらいになります。その間に色々なことを習いました。

介護の仕事に就いていることを話すと、「寝たきりの人ばかりで、大変でしょう」「えらいよね。私にはできない仕事だわ」とよく言われます。世間では、介護の仕事はきつい、汚いと思われていますが、そう言われても仕方がないかもしれません。

最近グループホームとデイサービスの両方で働いています。

グループホームでは、ご自分でできることは利用者様ご自身にして頂きます。そうすることで、利用者様自身の様々な機能が保たれるように心がけています。そのため、食事の支度なども一緒にするのですが、これが楽しいのです。

例えばスタッフは食事の準備をする、それからご利用者様に食事を配膳するので、すごく楽しいです。ときどきご利用者様に教えていただく大切な時間という感じです。それに、ご利用者様が「おいしいねえ」と言って食べてくださるのを見ると、本当に嬉しく温かい気持ちになります。

デイサービスの通所介護をする施設で、だいたいのデイサービスは午前10時～午後4時頃までの時間、在宅のご利用者様を受け入れて、食事や入浴、レクリエーションなどをするサービスのことです。

デイサービスの一日の流れは、利用者の方がデイサービスに到達するとまず看護師が検温や血圧測定をしてから、レクリエーションと入浴を交代で行い、昼食を食べます。入浴は身体の清潔を保つためだけでなく、血行をよくする効果、気分転換にもなるので、精神的なリラックス効果もあります。

入浴する時がすごく楽しいのです。ひとりのご利用者様にその時間スタッフが集中してサービスをします。濃い時間を過ごせる上に、とても喜んでいただけます。

例えば、普段は目を閉じたままの方が、お風呂に入った瞬間にぱっと目を開けてくださったり、全然しゃべらない方が、「気持ちいいね」と言ってくださったり。しゃべらないけど、話しかけるとうなずいてくださったり、本当にぐっときます。

ご利用者様が最後の生活の場として、当施設に入所され、人生の最後をいかに有意義に過ごしていただくかは、私たち職員にかかっていると常に感じています。

一日がとても貴重に思えます。ご利用者様に、最後まで、心穏やかな生活が送れるように、これからも支援していきたいと思えます。（塚本 澄子）

---

## ■■■ 今後の予定 ■■■

### ■ K F C 学習会

5月25日(土) 15:00～16:00

在日ベトナム人高齢者の背景と現状

ハ・ティ・タン・ガ (KFC) 於 KFC事務所

### ■ K F C 総会

5月25日(土) 16:00～17:00 於 KFC事務所

■ **KFC帰国者新長田交流会**

神戸まつりヘヤンコ隊で出演

5月19日(日) 14:48～(予定) 於 花舞台

**広島バス旅行**

**6月11日(火)**